

儒学論集

儒学文化 第7号

卷頭言

短大創立 40 周年・東日本国際大学 10 周年

学校法人昌平齋 理事長
儒学文化研究所 所長
田 久 孝 翁

昨年はいわき短期大学創立 40 周年、更に東日本国際大学の開設 10 周年と云う節目の年を迎えるました。

共に母体校昌平中学の創立は明治 36 年（1903）でありますから、今年は学園創立 103 年と云う訳であります。その間一貫して「昌平」と云う名の基に、近くは幕政時代の昌平坂学問所に基く儒学思想、孔子の教えに基づき、仁義礼知の精神を継承し、今日に至ったのが我が学校法人昌平齋であります。

孔子は既に 2556 年前、紀元前 551 年の人であります。世界四大聖人の筆頭に数えられる哲理に長けた聖人であります。昌平齋はこの哲人孔子の教えをそのまま建学の精神としてこの教えに従い、創立以来の歳月を追いつけてきました。

その意味に於いて儒学文化研究所は昌平齋に学ぶ者の一人としての当然の使命感であると理解しなければなりません。21 世紀は文明の衝突とも云われる程に世界各地に於いてテロと報復戦争とが後を絶ちませんでした。これで文明、文化人と云えるでしょうか。孔子は「治に在りて乱を思ふ」と云われたように、乱を想定する処に平和が築かれるのであって、テロも報復もその意味では同罪であり、世界は紀元 2000 年の歴史を汚すことになります。

正に物で栄えて心で滅ぶと云われるような社会環境では眞の文明國と云えるでしょうか。健全なる心を養うことが我々文化人に課せられた使命感である以上、万物の靈長人間に与えられた責任であると云わなければなりません。「己の欲せざるところ、人に施すこと勿れ」であります。時代は正に欲せざるものではなく、施すことが求められているのであります。

「仁義礼知」の精神こそが現代人に求められる心の教育であります。心が有るからこそ万物の靈長であるのであって、心そこにあらざれば只の動物でしかありません。

孔子は今を去る 2556 年前の人であり、『論語』を通じて人の人たる所以をつまびらかに説いています。然もその赴く処、今日に至るも些かも変わるものではありません。

例え何千年と過ぎようともそれが眞理である以上変わるものではありません。時に昨今

の文明社会の風潮としては機械的文明の進化に伴い、人々の心までが失われ、そこに文明の衝突となって現れます。即ちテロと報復戦争の現実であり、その一方では口を開けば「平和」「平和国家の建設」と呼ばれておりますが、全世界 60 億を越える全民族の平和を祈願するのはそう簡単ではありません。

そこに求められるのが各民族の歴史であり、眞理であります。その意味でも 2556 年の昔に遡り、不偏の眞理を誇る孔子の教え儒学文化の探究にこそ世界的平和が求められているのであります。